

**時代にまっすぐ、技術にまじめです。**



**個人投資家向け会社説明会  
日比谷総合設備株式会社**

**2009年5月23日**

【ご注意】本資料には、将来の業績に関する記述が含まれております。こうした記述は将来の業績を保証するものではなくリスクと不確実性を内包するものであります。将来の業績は、経営環境の変化等に伴い、本資料の予想数値とは異なる可能性があります。

# 会社概要

---

- 設 立 1966年3月
- 代 表 者 代表取締役社長 木村信也
- 資 本 金 57億53百万円
- 株 式 東京証券取引所 第1部上場
- 従 業 員 744名 【連結888名】 2009.3末
- 売 上 高 494億円 【連結601億円】 2009.3末
- 事業内容 空調・衛生・電気・情報通信の各設備工事  
各種設備システムの設計施工  
及び設備機器の製造・販売
- 子会社等 連結子会社 日比谷通商(株) ニッケイ(株)  
(持分法適用関連会社 日本メックス(株) 他1社)

# 支店・営業所

本社・東京本店

9 支店

19 営業所





【会社概要】

# 本社・東京本店



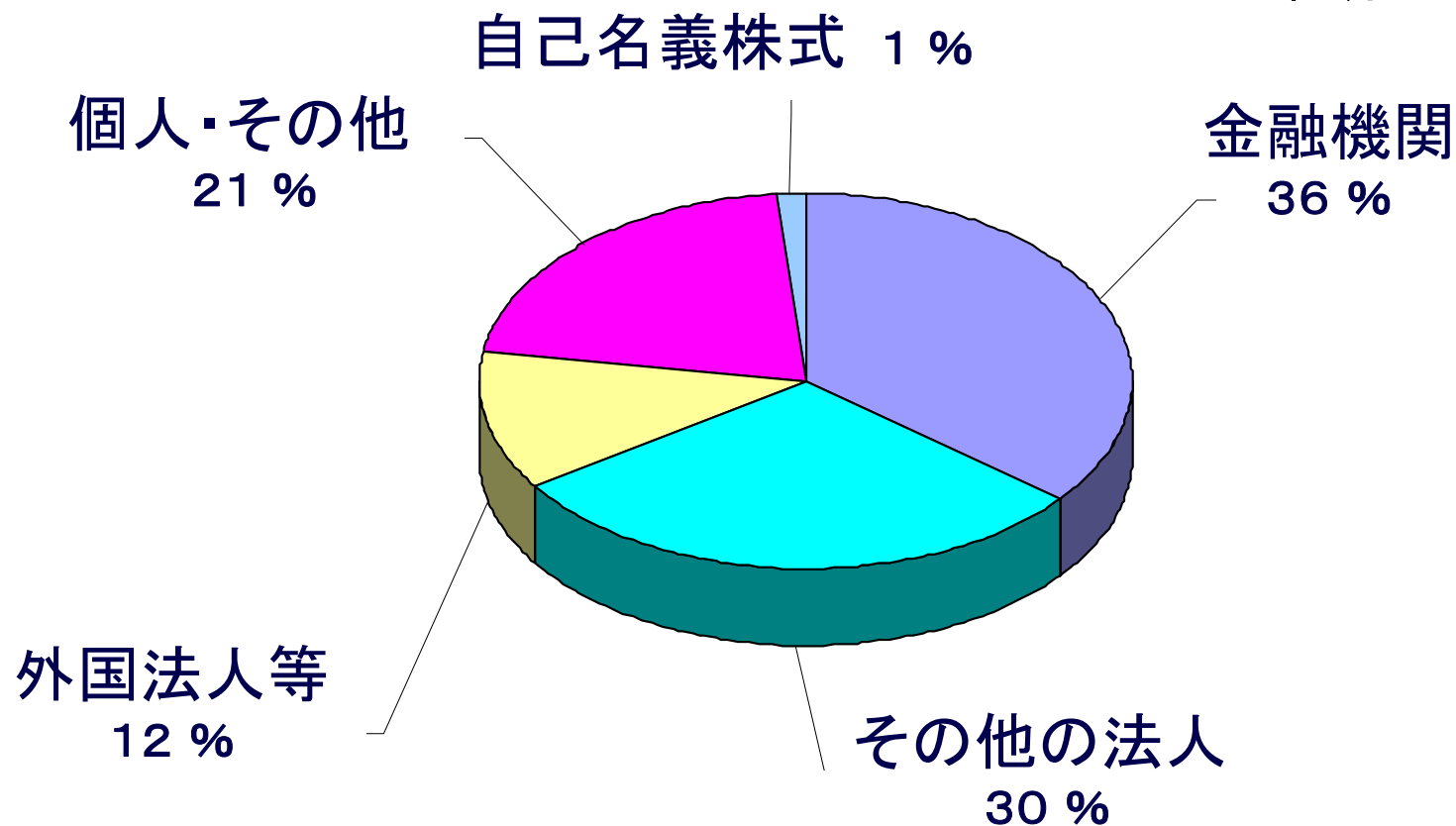
本 社  
(住友不動産  
三田ツインビル東館)



東京本店  
(NTT都市開発  
グランパークタワー)

# 株式の状況 [株主構成]

2009年3月31日現在



発行済株式の総数 : 34,000,309 株

3月末株主数 : 3,049 名

トータルエンジニアリング企業として、  
最適な建物環境を最高水準でお届けしています。

高層化、大規模化、地下利用などますます広がっていく建築空間。オフィスビル、工場、研究施設から一般高層住宅などに至るまで最適環境の創造をお手伝い。「保健用空調」、「産業用空調」に求められる最高品質と低コストを実現します。



空気調和設備

給水・給湯から排水まで、人間の生活にかかわる水のトータルコントロールを行います。環境に対する負荷はもちろみ、雨水利用、排水再利用などのシステム構築を総合的に設計・施工。快適な設備環境をご提供します。



給排水衛生設備

建築空間の動力源となっているのが電気。高度情報通信システムやコンピュータシステムに不可欠な電気設備をはじめ、照明、防犯・防災設備など高いクオリティの電気設備の提供を担っています。



電気設備

ICT（情報通信技術）なしではもはや情報通信を離れなくなった現代。日々進化しつづける技術と通信環境のなかで、世界最高水準の品質が求められる環境づくりをお手伝いしてきました。その実績を生かしたシステムネットワークの設計・施工を行います。

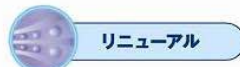


情報通信設備



環境マネジメント

省エネ法改正など、低炭素社会に向けたさまざまな規制が強化される現代。企業にとってのあるべきエネルギー管理（建物の環境負荷削減）を日比谷総合設備の「環境マネジメント」がご提案します。



リニューアル

リニューアルは、機器が劣化したときに行なう場合と、社会的な変化を改善するために行なう場合があります。最近の省エネ法などによるCO<sub>2</sub>削減や省エネルギー要求は後者に分類されます。日比谷総合設備では、地球環境保全に向けたリニューアル提案を積極的にこなしています。





## 空気調和設備①



エアコン



空冷ヒートポンプ屋外機



## 空気調和設備②



クーリングタワー



ターボ冷凍機

## 給排水衛生設備①



プール



ジャグジー

トイレ



## 給排水衛生設備②



高架水槽



消火ポンプ

## 電気設備①



## 照明設備



## 電気設備②



発電設備



受変電設備

## 情報通信設備



## 中央監視装置

# 2009年3月期 決算概要

---

# 決算概要（連結）

(単位:億円)

	2007/3 実績	2008/3 実績	2009/3 実績	前期比 (%)	計画比 (%)
売上高	668.9	612.2	601.5	▲1.7	▲5.3
営業利益	9.2	6.6	20.3	205.5	77.1
経常利益	21.6	24.3	31.3	28.9	49.5
当期純利益	13.5	9.0	14.0	55.6	17.2
ROE	2.6%	1.7%	2.8%	1.1ポイント	0.4ポイント

※計画比は2009年3月期の期初公表値(2008年5月15日発表)との比較



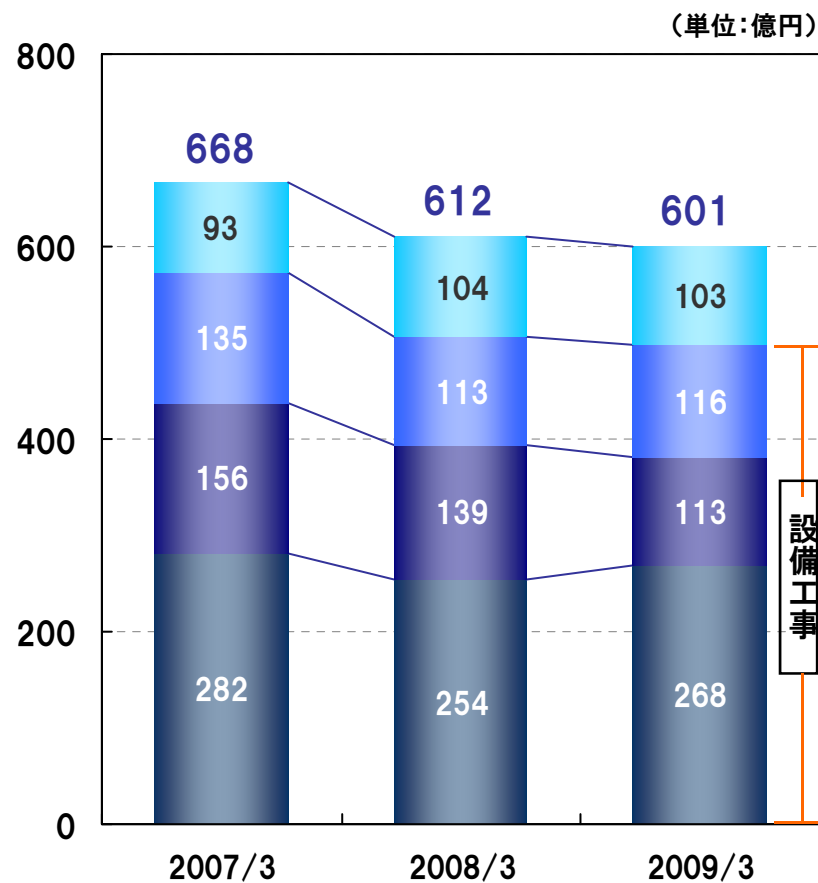
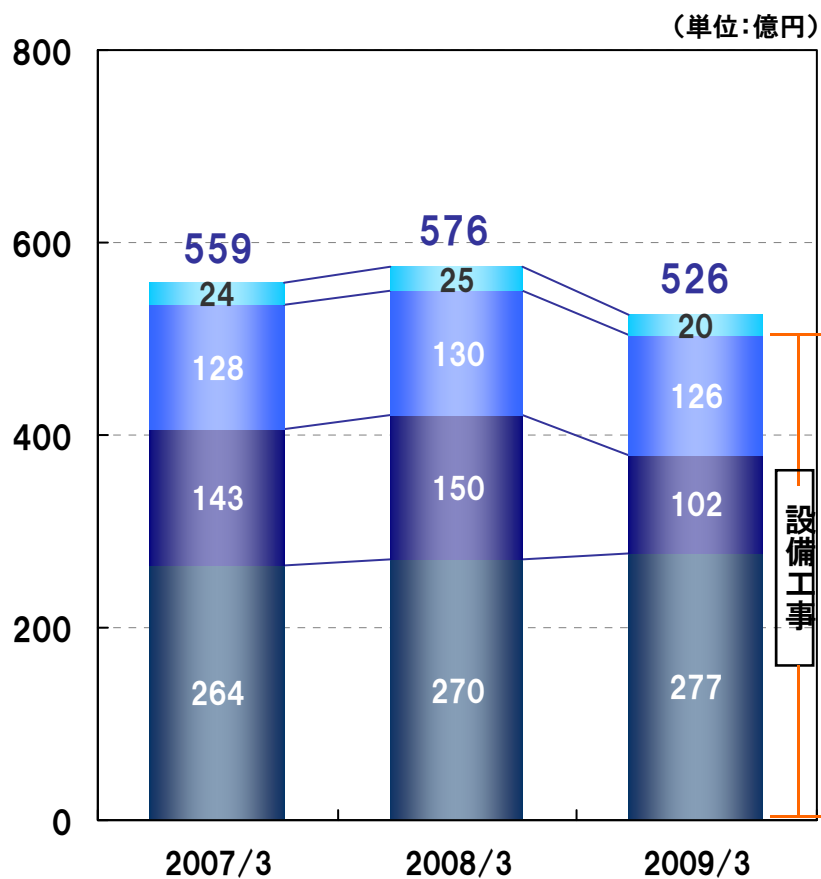
# 分野別 受注高・売上高（連結）

分野別受注高

分野別売上高

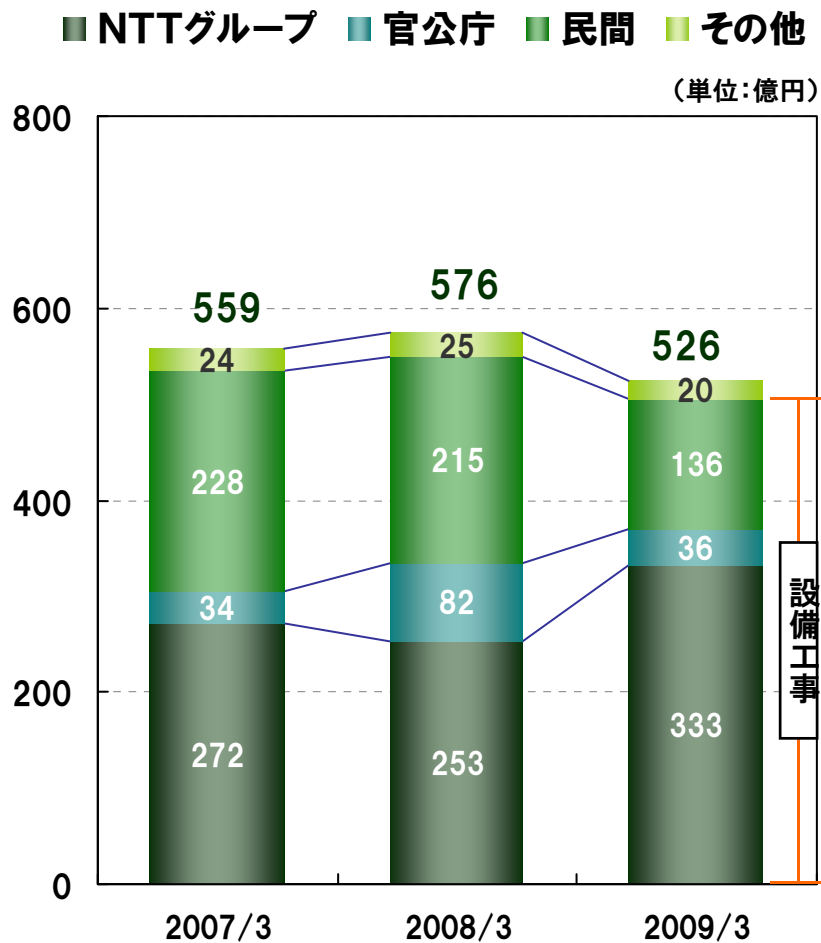
■ 空調 ■ 衛生 ■ 電気 ■ その他

■ 空調 ■ 衛生 ■ 電気 ■ その他

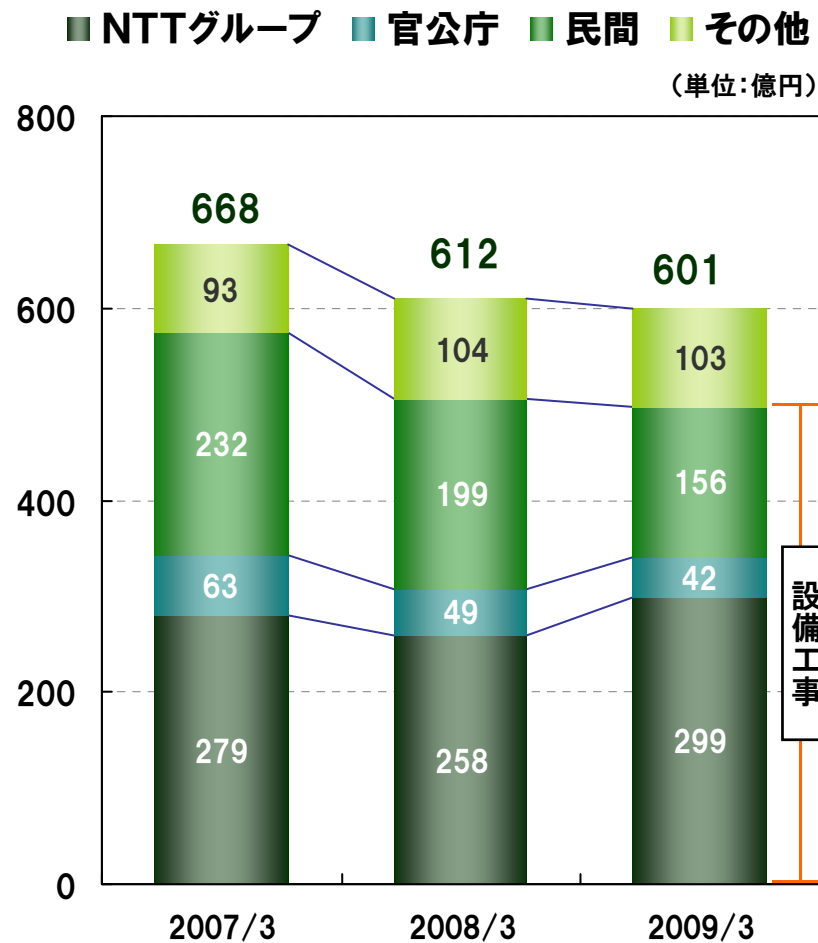


# 顧客別 受注高・売上高（連結）

## 顧客別受注高



## 顧客別売上高



# 第3次中期経営計画《2007.4～2011.3》と 2010年3月期事業計画

---

# 日比谷総合設備(株)のHIBIYA Vision



## ミッション

光・水・空気と情報で建物に命を吹き込み、お客様・社会にとって安全、安心、快適な環境を創造します。

たゆまぬ総合エンジニアリング力の向上によって、地球環境保全に貢献します。

建物のケア・マネージャーとして、ライフサイクルにわたるサポートでお客様のニーズに応えます。

社員を大切にし、お客様、株主を大切にします。

## 行動指針

1. お客様接点である、営業と工事の“現場”を起点として物事を考え、すべての仕事のやり方を見直し続けます。
2. “誠実とスピード”をもって、品質、安全、コストパフォーマンスの確保に取り組みます。
3. 常に高い目標、新たな技術・分野にチャレンジします。
4. 企業の社会的責任と法令遵守を常に意識し行動します。
5. “仲間”を大切にし、悩みや課題を対話によって解決します。
6. 言い訳をする前に“できる方法”を考えます。
7. “やりがい”を重視したマネジメントをします。



## 2010年度のイメージ

私たちは、“夢と希望と誇り”を  
持てるHIBIYAを実現します

- 創意と工夫で事業の発展に取組み、高い技術力と収益力を確保
- “ベストパートナー”と呼ばれている会社
- 常に新たな技術・分野に挑戦する会社
- 新しい事業に積極的にチャレンジし、社員から社長を輩出

## 既存分野の深耕と新分野の進出により、 事業ドメインの拡大を図る

### 【異業種事業領域】

### 【隣接事業領域】

### 【既存事業領域】

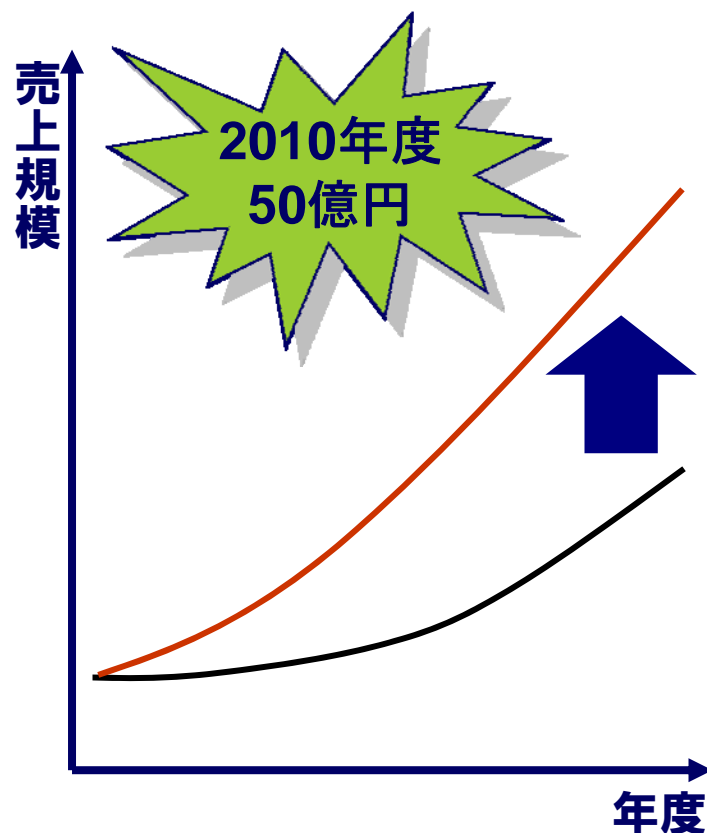
高付加価値化による収益力の向上

- ・開発事業
- ・川上営業
- ・リニューアル工事

## 各部門の連携による総合的な収益力向上を目指す



## 外部資源を活用することで成長を加速



外部資源活用による成長

M&A・提携による新規事業の立ち上げ

+

内部資源での成長

ビルシステム・インテグレーション事業  
ビルメンテナンス事業 等

環境ビジネス分野



# 第3次中期経営計画の柱

**1. 既存事業の収益向上**

**2. 新規事業の発掘・育成**

# 2010年3月期の計画と中計目標（連結）

今期予想  
(単位:億円)

中計ゴール期目標  
(単位:億円)

	2009/3 実績	2010/3 計画	2011/3 目標
売上高	601.5	665	750
営業利益	20.3	14	27
経常利益	31.3	26	37
当期純利益	14.0	16	22
営業利益率	3.4%	2.1%	3.6%
ROE	2.8%	3.3%	4.2%

※計画値は2010年3月期の期初公表値(2009年5月15日発表)

※目標値は2006年11月発表の中期経営計画公表値(2006年11月16日発表)

# 新規事業分野への取組み

---

## ■ 隣接事業領域への進出(現在取組み中)

- ・ビルセキュリティ(ビルシステム・インテグレーション事業)
- ・ビルメンテナンス
- ・省エネビジネス(エネルギーマネジメント・サポート事業)

## ■ 異業種事業領域への進出

- ・環境分野で検討中



## システム概要

### 【防災センター内 情報設備】



は自社製品

中央監視装置(H-BAS)

IPv6対応NW



エレベータ  
停止階制御



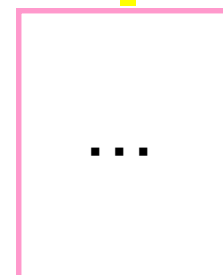
映像監視  
設備



入退室管理装置  
(NASCA)



空調等  
自動制御設備



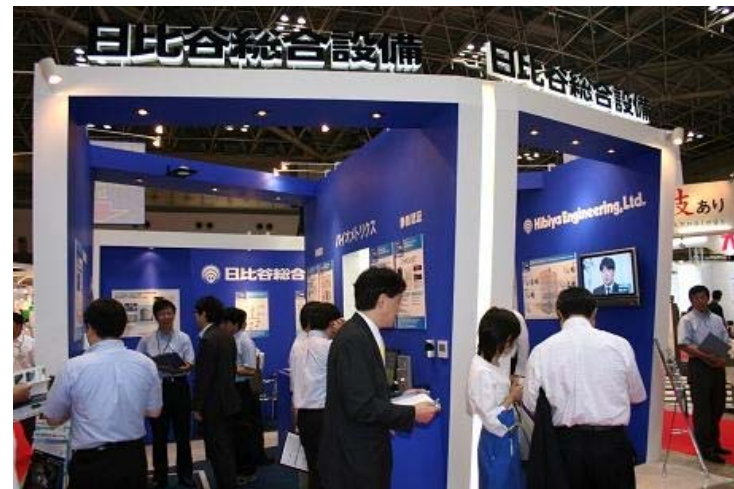
その他  
各種設備

## NASCA販売戦略

- ・OSEC2008展示会への出展  
問い合わせ多数あり
- ・ショールームを開設予定(本社)

## NASCAの特徴

- ・お客様のニーズに合わせた  
カスタマイズ化(安価)
- 機能-
- ・おサイフ携帯で入退室の認証
  - ・Edyカードで入退室の認証
  - ・指静脈認証で入退室
  - ・スケジュールのさまざまなパターンを  
ご用意



OSEC2008 展示場



ショールーム開設予定(イメージ)

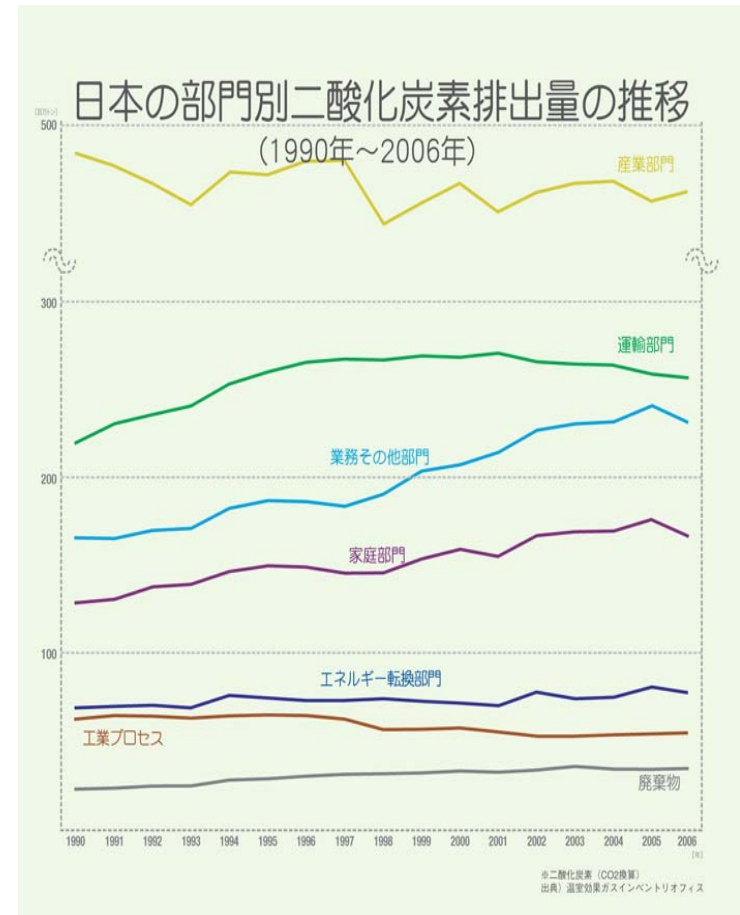
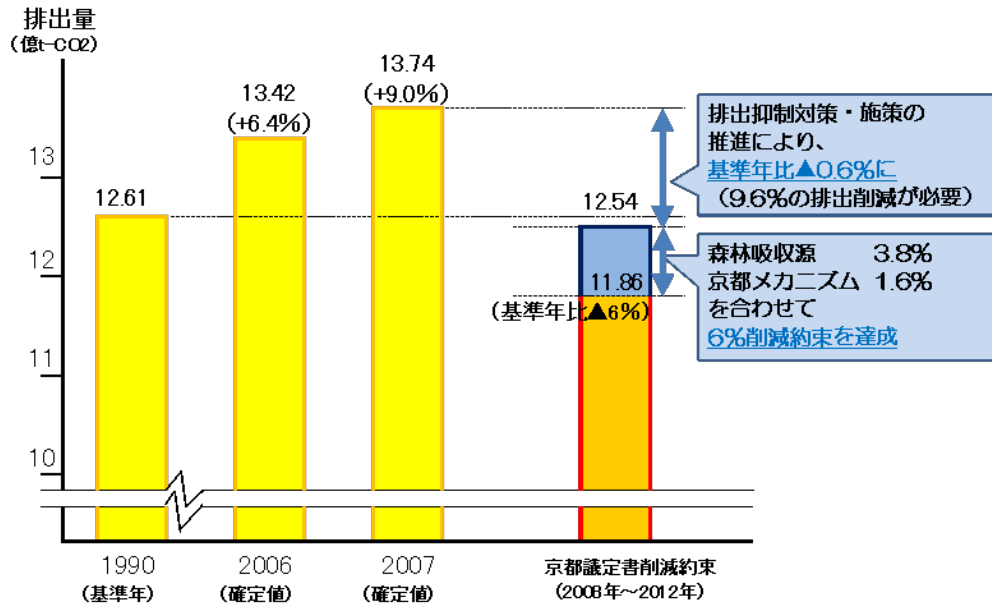
# 当社の環境分野への取組み

---

## 背景

- 経産省「改正」省エネ法 09.4施行
- 東京都 環境確保条例 10.4施行
- 環境省「日本版グリーンニューディール政策」 09.4発表

### 京都議定書 目標達成に向けた現状





## 対象業務

### ■ 省エネコンサル業務

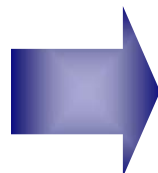
- ーデータ収集・分析業務(見える化)
- ー削減提案業務

### ■ 省エネ対策業務

- ー運用改善(チューニング)
- ー省エネ改修工事

## 対象施設

### ■ 中規模ビル



ヴェリア・ラボラトリーズと  
資本業務提携(2月)

# 財務戦略

---

## — 資本効率向上、株主価値向上に資する財務戦略 —

### 既存事業の収益力強化のための投資

- 事業上の政策投資、SPC・PFI事業への出資、システム開発 等

### 新市場への事業拡大のための投資

- ビルシステム・インテグレーション事業、ビルメンテナンス事業 等

### 配当及び自己株式取得・消却による 株主還元の実施

- 単元株式数の変更1000株→100株(6月1日より)

## 株主配当金

### 【基本方針】

- 業績に見合った成果の配分

(目標:当面の間、年間配当は下限15円、個別ベースでの配当性向60%)

### 【2009年3月期予定】

- 中間配当1株当たり7円50銭を昨年12月に実施

- 年間配当金は1株当たり18円50銭(予定)



## 自己株式の取得・消却

### 【基本方針】

- 自己株式の取得・消却は、資本効率の向上並びに株主への利益還元の一環として、機動的に取り組む

### 【2009年3月末時点】

- 取得株式数:272.9万株
- 取得価額:21.6億円
- 自己株式の消却:300万株

### 【今後の予定】<2009年3月25日取締役会決議の内容>

- 取得株式数:上限100万株
- 取得総額:上限10億円
- 期間:2009年4月1日～2009年9月30日

# コーポレート・ガバナンス及びCSR活動

---

## 取締役任期短縮

- 2008年6月27日の株主総会決議により  
2年→1年に短縮

## アドバイザリーボード設置

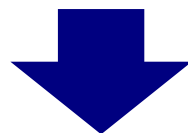
- 社外有識者より経営戦略に係る諸問題に関して有益な  
助言・提言を受けることを目的に設置

## CSR活動の定着

当社の重点取組事項：安全、品質、環境、コンプライアンス

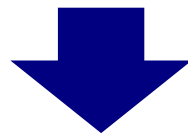
- CSR活動の全社員への浸透による意識改革
  - ・ボランティア等による社会貢献の実施
  
- CSR報告書のレベルアップ
  - ・CSR報告書2009の発行(6月)
  
- 全社ISO14001マネジメントシステムの運用開始
  - ・全店展開 → 全店取得予定(2009年7月)

## HIBIYA Vision・行動指針



【ブランドコンセプト】

**最先端の技術に長け、まじめに取り組む会社。**



【ブランドメッセージ】

**時代にまっすぐ、技術にまじめです。**